

大学生からのコミュニケーション

佐藤 純 (保健管理センター学生相談室
人間総合科学研究科ヒューマン・ケア専攻講師)

KY

昨年流行した言葉に、KYという言葉があります。この言葉には「空気を読めない」ことに対するネガティブな意味が込められています。その流行は、多くの人が「空気を読めない」ことに対して否定的な態度を持っていて、自分がKYになりたくないという思いを強く持っていることを現わしているように思われます。その場にいる人間が場の空気を同じように感じて、同じように振る舞わなければならない、もしも違ったことをしたら排除されてしまうかもしれない、KYはそうした圧力と不安を意味している言葉であるように聞こえます。

素人芸人

一方、また「お笑いブーム」がやってきて、テレビでお笑い芸人がネタをやっているのを見ない日はありません。特に最近のお笑いのネタは短いものが多く素人もマネしやすいのか、学食などに行くと、学生がお笑いコンビみたいに小ネタを披露しているのを目にすることもあります。いくつかネタを持っていて、飲み会などで披露する素人芸人のような学生もいるようです。しかし、こうしたブームも根っこはKYと同じかもしれません。友だちにウケることに大きな価値があり、スベることに不安を抱いている。KYも素人芸人も、周囲からの評価に対して不安を抱いている点では共通しているように思えます。

異なる

どうして同じであることやウケることに力が注がれるのでしょうか？推測になりますが、そもそも異なる人間のはずなのに、「みんな一緒に楽しく」過ごすことを過剰に重視しているからではないでしょうか。たしかに、高校生まではクラスで仲良くまとまって、同じ目標を持つことがとても大切なことであったかもしれませんが。育った地域や関心事も似たり寄ったりだったでしょうから、一緒に仲良くできることも多

かったと思います。そうした中で、お互いに同質性を求め仲間に受け入れられる努力をすることには、必然性があったのではないかと考えられます。

しかし、大学からは少し事情が変わってきます。専攻も年齢も違う人たちが、一つのキャンパスの中に混在しています。出身地も日本全国だけでなく世界各国から集まります。育ってきた文化が違いますから、当然、価値観や考え方も異なります。いろんな人がいるので、同質性を求めること自体に無理があります。同じ目標を持つ人たちと仲良くやっていけるにこしたことはないですが、「仲良くやること」と「同じ考えを持っていること」とは全く違うことです。したがって、大学生からは、単に人と仲良くやっていくのではなく、自分とは異なる価値観や考えを持つ人たちと、それぞれの持つ異なる意見を交わしながら理解し合っていくことが重要になってきます。同じでなくてもいいのです。

T-ACT

ですが、そうは思いつつも自分と似た人たちと集まってしまうのも人情です。そのため、いろんな人が筑波大学にはいるのだと知りながらも、同じ専攻、同じサークルの人たちとしか交流しない人が実際には多いと思います。

そこに朗報です。筑波大学では今年度から「つくばアクションプロジェクト (T-ACT)」が始動し、様々な活動を通して大学内外の人と交流できる仕組みを整えることになりました。学群や研究科を超えた、異なる価値観を持つ人たちとのコミュニケーションを経験するよい機会となると思います。T-ACTで企画される活動を通して、みなさんが異なる考えをお互いに伝えあいながら、新しい活動を創出していくことを期待しています (T-ACTについては、本誌の別ページに詳細な説明がありますので、関心のある方はご参照ください)。



ひとりで悩まず 保健管理センターへ

保健管理センター受付 029(853)2410

学生相談室受付 029(853)2415